1 高山社学について

(1) 高山社学の概要について

(2) 高山社について

(3) 高山長五郎の足跡をたどってみよう
学校教育で目指す児童生徒像
笑顔とやる気と希望に満ちた子ども

高山社学

具体的な学習内容（例）

小1 道徳
資料「まゆだーマンの養蚕改良 高山社」

小2 生活科
町探検 桑の木見つけた！

小3 理科
カイコを飼育して観察しよう

小4 社会科
高山社跡を見学しよう

小5 道徳
資料「苦心の末の大きなまゆ」

小6 社会科
富岡製糸場と高山社

中1 道徳
資料「藤岡市で養蚕改良に尽くした高山長五郎」

中2 社会科
殖産興業と高山社

中3 道徳
資料「高山長五郎」

総合的な学習の時間 「高山社の価値について地域の特色を調べよう

藤岡市の教育活動との関連
郷土学習、国際理解教育、キャリア教育

家庭・地域との連携
蚕の飼育、生糸づくり等の講師、桑の提供

関係機関との連携
文化財保護課(23:5997) 藤岡市歴史館(22:6999) 群馬県農政部
蚕糸園芸課(027-223-1111) 群馬県蚕糸技術センター
(027-251-5145) 群馬県紗の里(027-360-6300)
高山社について

藤岡市教育委員会 生涯学習課
志村 哲

はじめに

群馬県で世界遺産登録を進めている「藤岡製糸場と綿産業遺産群」が平成25年1月31日に、ユネスコ世界遺産センターへ推薦書の正式版が提出されました。この中に当市の「高山社跡」が綿産業遺産の一つにあげられています。高山社は、市内出身の高山長五郎があみ出した養蚕の飼育法「清温育」を全国に広めるために作った民間の教育組織です。明治30年代には全国から生徒が集まり、全国共通の養蚕技術として「高山社は藤岡町の高山社に非ず日本の高山社なり」と呼ばれるようになりました。今後、国際記念物遺跡会議（イコモス）による審査が行われ、平成26年の夏ごろに世界遺産に登録される予定です。

高山長五郎

長五郎は、文政13年（1830）4月17日、父寅三と母サヨの次男として現在の藤岡市高山に生まれました。この頃は、綿の材料となる生糸は輸出品の主流となり、ますます需要が高まったことから、幕末から明治にかけて養蚕業が全国に広がりました。そのため安定した養蚕方法が求められ、全国で養蚕技術の改良が行われるようになりました。

嘉永元年（1848）、18歳で二代目長五郎として高山家の家督を相続し名主となりました。若くして村政に従事するとともに、村民の経済安定を図るため幹線道路や林道の整備を行いました。また、山林の開墾を奨励し木材や炭の生産を産業とする方針を打ち出しました。

長五郎が養蚕を始めたのは安政2年（1855）の時と言われ、数年間はコシャリ（白癬病）による失敗が続いたため、従来の養蚕書の研究にとりかかり各地の養蚕家を訪ね養蚕技術の経験を積みました。特に「清涼育」を提唱する伊勢崎市境島村の田島弥平や神流町魚尾
の岩崎竹松からの影響は大きいと言われています。
その結果、7回目によくやく成果をあげたと言われています。明治3年（1872）には、養蚕改良高山組を組織し、生糸の販売や座縫糸の改良にも積極的に進めました。
明治17年に養蚕製造法「清製作」を完成させ、養蚕業の安定化を図る目的で養蚕改良高山社を設立し、会社組織として広めたことから全国共通の養蚕方法となりました。

養蚕改良高山社
長五郎が明治3年に組織した養蚕改良高山組は、伝習生の増加に伴い優秀な門下生を受業員として各地へ派遣し養蚕技術を指導されました。この方法が後の高山社養蚕教育の礎となっています。
明治17年、養蚕改良高山社を設立し会社組織としました。社員139人、指導する農家は600戸を越していました。明治18年から一層の拡大を図るため、藤岡町へ事務所と伝習所を移すことになりました。建設地は現在の多野藤岡農協から北側になります。
明治20年、長五郎の遺志を継いだ町田菊次郎は、養蚕改良のさらなる普及に取り組み、明治34年に私立甲種高山社蚕業学校を立ち上げ初代校長に就任しました。学校は本科と別科に分かれています。本科は1学年50人、入学資格は14歳以上の男子で、尋常中学校2年修了者（両者とも無試験）、または同等の学力を有する者で、前期（4月～7月）に実習を、後期に学理を履修します。別科は男子部と女子部があり、15歳以上の高等小学校卒業程度の者が入学をゆるされました。3学期制（各3月）で、1・2学期は社員が経営する分教場で実習し、3学期は伝習場で学科を学びました。授業料は月額1円で実習中は免除されます。なお、本科生は在学中の徴兵が猶予されました。
明治40年の最盛期には分教場62箇所、約40,000人の社員、1,200人以上の生徒をかかえるほどになりました。

高山社を支えた分教場

分教場は、授業員の中から資格のある者を選び、それぞれの自宅で伝習をするところです。別科生を教えるほか、蜜種の改良も積極的に進めて製造を行い、それを全国に販売していました。また、養蚕指導員として各地に派遣し、その収益が養蚕学校の経費にあてられていきました。

高山社養蚕学校分教場の推移

<table>
<thead>
<tr>
<th>年号</th>
<th>美里</th>
<th>小野</th>
<th>神原</th>
<th>廣田</th>
<th>美里</th>
<th>平井</th>
<th>日野</th>
<th>鬼石</th>
<th>美原</th>
<th>市街</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>明治</td>
<td>35</td>
<td>12</td>
<td>9</td>
<td>1</td>
<td>4</td>
<td>5</td>
<td>4</td>
<td>3</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>68</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>37</td>
<td>9</td>
<td>9</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>5</td>
<td>4</td>
<td>3</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>69</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>38</td>
<td>9</td>
<td>9</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>5</td>
<td>4</td>
<td>3</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>67</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>39</td>
<td>9</td>
<td>9</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>5</td>
<td>4</td>
<td>3</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>67</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>40</td>
<td>9</td>
<td>9</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>6</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>67</td>
</tr>
<tr>
<td>大正</td>
<td>41</td>
<td>10</td>
<td>12</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>7</td>
<td>5</td>
<td>3</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>76</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>46</td>
<td>9</td>
<td>9</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>10</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>0</td>
<td>58</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>7</td>
<td>9</td>
<td>9</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>11</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>0</td>
<td>59</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>11</td>
<td>9</td>
<td>9</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>11</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>0</td>
<td>62</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>12</td>
<td>9</td>
<td>9</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>11</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>0</td>
<td>62</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>13</td>
<td>9</td>
<td>10</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>11</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>0</td>
<td>62</td>
</tr>
</tbody>
</table>

高山社養蚕法

（1）清温育

自然にまかせた「清涼育」と人工的に湿度・温度を管理した「温暖育」の折衷育である「清温育」を完成させました。「清温育」の名称は、明治16年8月の「私立viar進会申告書」の飼育法の記載欄に「清温飼」と書かれたものが最古と考えられます。翌17年（1884）には「清温育」と記載され飼育法が確立されたようです。

ア 畑は暖かい時は食欲旺盛で消化力も強くので、桑が豊富な時は蚕室を暖め、桑が不足気味の時は温度を下げる。
イ 眠期に入る直前は食欲が旺盛なため、その時に給桑量を増やすと体力がつき丈夫な蚕ができる。
ウ 蚕は湿気や乾燥を嫌うため、蚕室の温度と湿度をいつも適切に調節できるよう工夫する必要がある。そのために天窓（換気装置）を作って炭火の暖め過ぎによる湿った空気を抜くことが大切である。
エ 蚕座は適度に乾燥した状態がよい。
オ 桑は新鮮さを保つために大きめに切りそろえる。
(2) 蚕室構造
ア 入母屋の上に造られた通風のための小形の高窓（棟）を設置。
イ 日当たりのよい南面に面し、蚕室の中は廊下と障子で外気が遮断される。
ウ 部屋の中央に火鉢を入れる炉を切り両側にカゴを入れる棚が設けられる。
エ 天井は幅の狭い板をスノコ状に張ったコマガエンと呼ばれるもので、換気がし易いようになっている。

(3) 養蚕道具の改良
ア 蚕の卵を適温に保ち、卵を均一に孵化する木骨紙張り催青器
イ 桑切り庖丁
ウ 桑箒
エ 蒔を乾燥させ糸質と蛹を保護する殺蛹器

[図：高山蚕室]
世界遺産登録を進めている高山社跡

高山社長屋門

養蚕改良高山社の額

高山社跡説明版

蚕室2階に設置された炉

蚕室2階

蚕室2階の饲养棚

蚕室屋根裏部屋の床（コマガエシ）

桑貯蔵庫
市内に残る高山社関係遺産

おわりに

高山社は、高山長五郎が確立した「清温育」を全国に広めるために作った養蚕技術の教育組織です。明治40年には分校場62箇所、約40,000人の社員、1,200人以上の生徒をかかえ、その卒業生は養蚕技術者として、各地で高山社流養蚕方法を普及させました。これにより、全国共通の養蚕方法として養蚕業の安定化を図るとともに生糸の大量生産を可能にしました。

また、養蚕教育のみが脚光を浴びていますが、製糸改良にも力を注いでいたことが注目されます。当時の製糸は、富岡製糸工場を中心とする器械製糸よりも農家で作られた坐紡製糸の方が圧倒的に多く、県内各地で座紡製糸の改良が進んでいました。この坐紡製糸の改良に長五郎がかかわり製糸改良高山組等を設立しています。さらに、蚕種改良の組合組織も設立していたことが判明しており、今後の究明が待たれます。
高山長五郎の足跡をたどってみよう！

【人物調べ情報ガイド】
・群馬県在住の人々 正文社
・まんが藤岡の歴史 上毛新聞社
・多野藤岡地方誌 総編纂
・上毛篤農倶 みやま文庫
・郡上史に詳く人々 第1集 群馬県

【高山長五郎】の生きた時代

<table>
<thead>
<tr>
<th>日本地名</th>
<th>高山長五郎に関すること</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1833 (天保4)</td>
<td>天長の大ききさ始まる。</td>
</tr>
<tr>
<td>1841 (天保11)</td>
<td>天長の改革が始まる。</td>
</tr>
<tr>
<td>1859 (安政6)</td>
<td>横浜港が開港される。</td>
</tr>
<tr>
<td>1867 (慶応3)</td>
<td>大歳義誕。江戸幕府滅亡。</td>
</tr>
<tr>
<td>1868 (明治元)</td>
<td>明治維新が始まる。</td>
</tr>
<tr>
<td>1872 (明治4)</td>
<td>富国製紙工場が建てられる。</td>
</tr>
<tr>
<td>1889 (明治21)</td>
<td>大日本帝憲書を発表される。</td>
</tr>
<tr>
<td>1912 (大正元)</td>
<td>明治天皇死去。大正天皇即位。時代は大正となる。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

群馬県高山村に高山長五郎の長男として生まれる。
父が日野倉へ従事、高山家の家督を継ぎ、名主となる。
笑果の研究を始める。
母室を再建し、家形を再構成する。
新しい家屋での6回目の創食に失敗、最初から研究をやり直す。
7回目で成功、大きな笑果をつくらせることに成功。
39歳。新しい創食法「活活食」を発表する。
高山組を設立、「活活食」の巡回指導を始める。
高山組を改め、笑果改良高山村（高山村農業学校の前身）をつくる。
病気を患い、56歳で亡くなる。
町田秀次郎らによって、功徳院が雇用神社内に建てられる。

高山長五郎生家（2階部分のみ当時のまま）